

暑い熱い夏の日のことです。

働き者のありは、せっせせっせと
食べものを運んでいました。

キリギリスは涼しそうに草むらで
得意のバイオリンを弾いていました。

「ありさん、一緒に歌おうよ。」とキリギリスさん。
「冬がくる前にしっかり食べものを運ばないと大変に
なるからね。そんな暇はありませんよ。」とありさん。

やがて葉っぱは紅くなり、風に舞い始めました。

それでも得意になってキリギリスはバイオリンを弾いていました。

やがて冷たい北風がビュービュー吹いてきました。

キリギリスは食べ物をさがして野原を歩きまわりましたが、
もうどこにも食べ物はありません。

雪がふり、寒さに震え、お腹をすかしたキリギリスは
ようやく一軒の家を見つけて戸をたたきました。

そこはありさんの家でした。

寒さに震えているキリギリスをあったかい家の中に入れて、
たくさんごちそうしたのでした。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789:;<=>?@!"#\$%&'()*+,-.

働
き
者
で、
あ
り
さ
ん。
あ
り
さ
し
い